

就学前幼児の家庭教育



～ 入学前に身に付けておきたいこと ～

平成 24 年 12 月

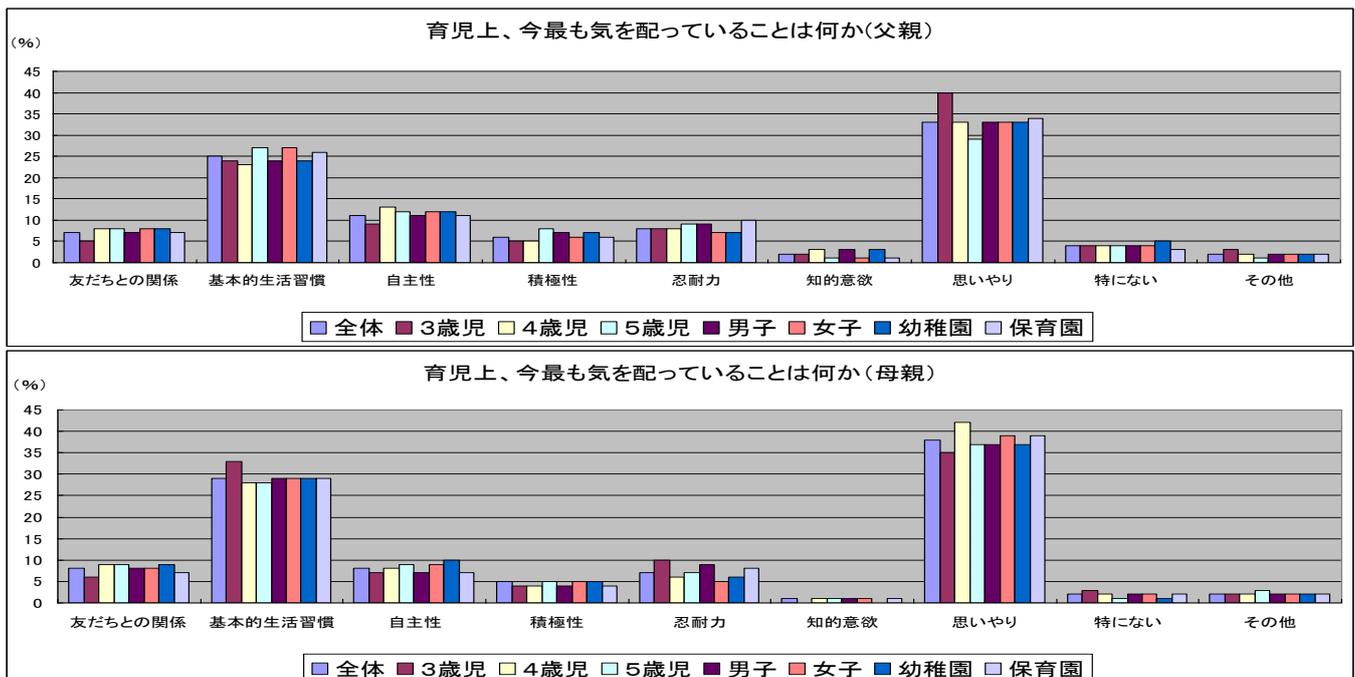


■ はじめに

子どもの小学校入学にあたり、親は大きな期待とともに少なからずの不安をもっています。入学前に身に付けてほしいこととして学校からは、「基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）が身についていること」「友達と仲良くできること」「しっかり話を聞くことができること」などが伝えられます。これらはとても大切なことです。ところが今、子育ての情報が氾濫する中で、親は何を受け入れて実践すればいいのか迷い、自分が願う子どもの姿・実態と情報の違いに不安をもつ例も少なくありません。そこで今回は、平成 22 年度に実施した「親の養育態度・意識の調査」をもとに、親の思いを考慮してポイントを示します。

■ 親の養育意識調査より ～平成 22 年度実施～

価値観が多様化する中、子育てにおいてもそれは例外ではありません。育児に対して親がどのようなことに気を配っているのか、調査結果では以下のようになっています。



<幼児（3・4・5歳児）をもつ保護者の子育てに関する調査>

平成 7 年より 5 年毎に実施。県内 36 の幼稚園・保育所（園）の 3・4・5 歳児の保護者を対象に質問紙形式で実施。
《詳細問い合わせ先：福岡県立社会教育総合センター》

この結果から、「基本的な生活習慣を身に付けさせること」や「思いやりの心を育むこと」が特に意識されていることがわかります。では、入学前の子どもがこれらを身に付けるためには、親がどのようなことを実践すればいいのでしょうか？

■ 入学前に身に付けさせておきたいこと

1 基本的な生活習慣 (参考バックナンバー：第 5 号、21 号、22 号、24 号)



基本的な生活習慣を身に付けさせるために、十分な睡眠時間を確保するようにしましょう！

就学前の幼児や小学校低学年児童が十分な睡眠時間をとるためには、午後 9 時までに眠る必要があります。そのために親は、子どもの睡眠時間の管理を行うとともに、習慣づくりを図ることが必要で

す。また、子どもが早く就寝できるよう静かな環境をつくるなど親自身の協力は不可欠です。

さらに、子どもは十分な睡眠時間を確保することで、目覚めがよくなり自分で起きることができま
す。すると、朝食をしっかり食べられ、排便の余裕が生まれます。登校までの時間が十分にあること
で、体と心の準備を整えることができるのです。基本的な生活習慣づくりは、早寝から始まるのです。

<基本的な生活習慣に関連して>

- 早くぐっすり眠るためには、外で元気に遊ぶなど、体を動かす活動を行うことが必要です。
- 『自分で着替え、脱いだものをたたむ』ことは、学校でのスムーズな着替えや、自分の持ち物管理につながります。
- 食事の際の『箸の正しい持ち方・使い方』は、他の指先を使う作業にもつながります。
- 小学校は『和式のトイレ』が多くあります。和式での排便の経験も必要です。

2 思いやり、友達との関係 など (参考バックナンバー：第1号、9号、11号)

Check!

自分から進んで「あいさつ」ができるようにしましょう!

子どもが自ら進んであいさつができるように意識付けをしていきましょう。そのために、あい
さつを交わす機会を増やしたり、あいさつを自らできたらほめたりしましょう。また、親が気持
ちの良いあいさつの手本を示すことも必要です。あいさつをきっかけとして人とかかわる経験を
積むことで、相手を思いやる気持ちをはぐくんだり、友達との望ましい人間関係づくりをはぐ
くんだりすることができます。

Check!

友達との遊びを通して多くのことを学ばせましょう!

友達との遊びの経験を通して社会性がはぐくまれていきます。相手を大切に
したり、相手から大切にされたりすることや、友達とのけんか、仲直りの仕方、
自主性など、実際に友達とかかわることでしか得ることができない多くのこと
を学びます。このことは、子どもがこれから社会生活を営んでいく上ではとても大切なことです。
将来にわたって必要な対人関係や社会性の基礎をこの期に身に付けさせたいものです。



<思いやり、友達との関係に関連して>

- あいさつをされたり、名前を呼ばれたりするときは『きちんと返事ができる』ことが大切です。
- 話を聞くときは、『相手の目を見ながら聞く』ことができることが大切です。
- 『外で友達と一緒に遊ぶ』経験を通して、多くのものに興味や関心をもつとともに、コミュニ
ケーション能力がはぐくまれます。

■ おわりに

小学校入学前までに、親は様々な情報を入手し、「これができていない」「あれもしなければ」「ほ
かの子はどうなのだろう？」等々、不安に駆られてついつい子どもに多くのことを強いてしまうこ
とがあります。そこで、最後に、親が身に付けておきたい子どもへのかかわり方のポイントをいく
つか示しておきます。(参考バックナンバー：第2号、4号、15号、16号)

<ポイント>

- お手伝いのやり方などは手本を見せて、実際にさせてみましょう。
- 子どもができないことも叱らずに励まし、まずは最後までやらせてみて、少しずつステップア
ップしながら根気強く時間をかけてさせましょう。
- 子どもが自分でできるようになったら言葉や表情・態度で大いにほめましょう。
- 子どもは成功や失敗を経験して「生きる力」を身に付けていきます。友達とのかかわりや様々
な体験に対して、親自身の言動が、子どもに失敗させないための「転ばぬ先の杖」とならないよ
う留意し、見守っていきましょう。